

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
<p><b>第2章</b> <b>子どもの発達</b> <b>1. 乳幼児期</b> <b>発達の特性</b></p> <p><b>2. 発達の</b> <b>過程</b></p>	<p>保育の実施に当たっては、次に掲げる子どもの発達の特性や発達の過程を理解することが大切であること。</p> <p>○子どもは、身近な大人によって生命が守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定し人への信頼感が育ち、次第に自発的に身近な人、事物、出来事に興味や関心を持ち、働きかけるなど自我が芽生えること</p> <p>○子どもは、子どもを取り巻く環境（人、自然、事物、出来事など）に主体的に関わることにより成長・発達していくこと</p> <p>○子どもは、大人との信頼関係を基盤にして、子ども同士の関係を持つようになり、相互の関わりを通じて、知的、身体的な発達とともに情緒的、社会的、道徳的な発達が促されること</p> <p>○乳幼児期は子どもの心の発達が著しく、生理的・身体的な諸条件や生育環境の違いにより、一人一人の個人差が大きいこと</p> <p>○家庭及び保育所を通じた連続した生活全体の中で、子どもの発達過程に応じた必要な経験の積み重ねが大切であり、特に主体的な活動の中心である遊びを通して集団、協同的な関係が育ち、その中で個の成長も促されること</p> <p>○乳幼児期は生涯にわたる生きる力の基礎が培われ、特に身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、豊かな感性とともに好奇心や探求心が養われ、その後の生活や学びの基礎になること</p> <p>子どもの発達過程は概ね次項に示す8つの区分（Ⅰ～Ⅷ）として捉えること。 <u>ただし、この区分は、同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達過程として捉えるべきであること</u></p> <p><b>Ⅰ 6か月未満児</b> 子どもは誕生後、母体内から外界への環境の激変に適応し、著しい発育・発達がみられる。月齢が低いほど体重や身長が増加も大きい。視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語など</p>	<p>○「子どもの発達」を「発達の特性」と「発達過程」から示したことについての説明</p> <p>○「子どもの発達」についての一般的概念ではなく、保育を実施する上で必要な事柄として示す</p> <p>○人への信頼感が育つ</p> <p>○自我の芽生え</p> <p>○環境に主体的に関わることにより育つ</p> <p>○子ども同士の関係</p> <p>○子ども相互の関わりから育つ</p> <p>○生育環境・個人差</p> <p>○遊びを通して育つ</p> <p>○協同的な関係の育ちと個の成長</p> <p>○生涯にわたる生きる力の基礎を培う</p> <p style="text-align: right;">等の語句の説明</p> <p>○発達過程区分については8区分を継承</p> <p>○発達の連続性を重視</p> <p>○産休明け児についても説明が必要</p> <p>○心身の未熟性</p> <p>○感覚の発達／著しい身体的成長</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>で自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆を形成する。生後、4か月くらいまでに首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返りをうつ、腹ばいなどにより全身の動きが活発になる。</p> <p><b>Ⅱ 6か月から1歳3か月児</b></p> <p>6か月を過ぎる頃から身近な人の顔がわかり、あやしてもらうととても喜ぶ一方、人見知りをするようになる。1歳前後には座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動や姿勢の発達や自由に手を使えることにより、身近な人やものに<b>興味を示し</b>、探索活動が活発になる。身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで<b>伝えようとし</b>、簡単な言葉が理解できるようになる。食事は離乳食から幼児食へ徐々に移行する。</p> <p><b>Ⅲ 1歳3か月から2歳未満児</b></p> <p>歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、<b>押す</b>、つまむ、<b>めくる</b>など様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、自信を持ち、意欲を高める。そのなかで、<b>物を仲立ちとしたふれあい</b>や取り合いなども多くなる。<b>また見立てなどの象徴機能が発達してくる</b>。大人の言うことが分かるようになり、自分の思いを親しい大人に伝えたいという欲求が高まり、<b>拒否を表す片言や、指さし、身振り</b>などを盛んに使うようになる。そして、1歳後半には二語文を話し始める。</p> <p><b>Ⅳ 2歳児</b></p> <p>歩く、走る、跳ぶなどの基本的運動機能が伸び、身体運動のコントロールも<u>うまくなり</u>、指先の機能も発達する。また、<b>発声も明瞭になり語彙の増加もめざましく、自分の欲求を言葉で表出できるようになる</b>。行動範囲が広がり探索活動がさかんになる中、他の子どもと関わりを<b>求めるようになる</b>が、欲求が妨げられると<b>かんしゃくを起こしたり反抗をしたりし自己主張することもある</b>。盛んに模倣し、物事の中の共通性を見出し<b>概念化できるようになる</b>。また<b>象徴機能の発達により</b>、大人と一緒に簡単なごっこ遊びができるようになる。</p> <p><b>Ⅴ 3歳児</b></p> <p>基礎的な運動能力が育ち、食事・排泄などもかなりの程度自立できるようになってくる。話し言葉の基礎ができて、さかんに質問するなど<b>知的興味や関心</b>が高まり、<b>言葉はますます豊かになる</b>。自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には平行遊びが多い。大人の行動や日常経</p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○喃語</li> <li>○情緒的な絆～愛着の形成</li> <li>○首が座る・寝返り・腹ばい</li>   <li>○座る・はう・立つ・つたい歩き・一人歩き</li> <li>○探索活動</li> <li>○生活空間の拡がり</li> <li>○大人とのやりとり</li> <li>○離乳食から幼児食へ</li>   <li>○言葉の習得</li> <li>○歩行の確立</li> <li>○行動範囲の拡大</li> <li>○手の機能の発達</li> <li>○友達や周囲の人への関心</li>   <li>○基本的運動機能の伸長</li> <li>○言葉による表出</li> <li>○自己主張・自我の育ち</li> <li>○模倣</li>   <li>○基本的生活習慣の形成</li> <li>○食事・排泄などの自立</li> <li>○話し言葉の基礎</li> <li>○平行遊び</li> </ul>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>験したことをごっこ遊びに取り入れ再現したり、遊びの内容に象徴機能や観察力を発揮した発展性が見られるようになる。<u>予想や意図、期待を持って行動できるようになる。</u></p> <p><b>VI 4歳児</b> 全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧みになる。自然物など身近な環境に積極的に関わり、様々なものの特性を知り、その関わり方、遊び方を体得していく。目的を持って作ったり描いたり行動するようになる。自意識が芽生え、自分の思ったようにいかないといった葛藤や<u>自分の気持ちを抑え、我慢することも経験する。</u>空想力、想像力も豊かになり、<u>身近な人の気持ちが分かるようになり、情緒が豊かになる。</u>仲間とのつながりは強まるがけんかも多くなる。</p> <p><b>VII 5歳児</b> 基本的な生活習慣が確立し、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間とともに活発に集団遊びを楽しむ。<u>言葉によって共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かってまとまって行動することが多くなり、その中で、きまりを守ることの必要性がわかる。</u>またけんかを自分たちで解決しようとしたり、自分なりに考えて、判断したり、自分や他人を批判する力が生まれるとともに、<u>お互いに相手を許したり認めたり他人の役に立つことを嬉しく感じ、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。</u></p> <p><b>VIII 6歳児</b> 手指の微細運動がすすみ、全身運動がなめらかになり、快活に跳び回るようになる。仲間の意思を大切に、役割の分担が<u>うまれるような</u>共同遊びを行い、満足のいくまで取り組む。予想や見通しをたてて積極的に環境に関わり、様々な経験や知識を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させ、仲間とともに楽しむ。意欲も増し、思考力、認識力も高まり、<u>文字や社会事象、自然事象などへの興味関心も深まる。</u></p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ごっこ遊び</li> <li>○社会性習得の基礎</li> <li>○体の動き、バランス力</li> <li>○自然との関わり</li> <li>○自意識と葛藤の経験</li> <li>○けんか</li> <li>○想像力、イメージの拡がり</li> <li>○基本的な生活習慣の確立</li> <li>○運動機能の高まり</li> <li>○仲間の存在</li> <li>○規範意識や社会性の発達</li> <li>○自主性・自律性</li> <li>○集団行動や生活における基本的態度</li> <li>○自主と協調の態度</li> <li>○思考力・認識力</li> <li>○創意工夫</li> <li>○小学校への興味や期待</li> </ul>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
<p><b>第3章</b> <b>保育の内容</b></p> <p>1. 保育のねらい及び内容 (1) 養護に関わるねらい及び内容</p>	<p>○前章に掲げた子どもの発達の特性やその過程を踏まえて、本章では保育の内容を示す。</p> <p>保育の内容は「ねらい」及び「内容」で構成される。ねらいは、第1章の「保育の目標」をより具体化したものであり、子どもが保育所において安定した生活と充実した活動ができるようにするために保育士等が行うべき事項及び子どもが身につけることが望まれる「心情」「意欲」「態度」などを示したものである。また、「内容」は、これらのねらいを達成するために、子どもの状況に応じて保育士等が適切に行うべき事項と、子どもが環境に関わって展開する具体的な活動などの事項を示したものであり、保育士等の関わりの視点から、「養護に関わる事項」と「教育に関わる事項」に分類している。</p> <p>ここにいう「養護」とは、子どもの健康及び安全の保持並びに情緒の安定を図るために保育士等が行う生活上の援助や関わりである。また、「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるために保育士等が行う援助や関わりであり、子どもの発達の側面から、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域としてまとめている。</p> <p>保育所における保育は、養護と教育が一体となった子どもの発達のための援助や関わりにより、豊かな人間性を持った子どもを育成するところにその特性があり、子どもの状況を踏まえ、その生活や発達の連続性を見通して、相互に関連を持ちながら、総合的に展開されることが求められる。</p> <p><b>[健康・安全に関わるねらい]</b></p> <p>① 子どもの生命の保持、生活の保障を家庭や地域社会との連携の下、積極的に推し進め、子どもの健康と生活の安定を図る。</p> <p>② 一人一人の子どもの心身の状態を把握し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。</p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <p>○児童福祉施設最低基準第35条「保育の内容」との関連</p> <p>○2章の発達過程区分を踏まえて説明</p> <p>○保育を実施する上では2章と3章の内容を組み合わせ使用すること</p> <p>○養護の説明</p> <p>○教育の説明</p> <p>例：「幼児期の発達の特性に照らした教育とは… いわゆる早期教育とは本質的に異なる。幼児期の教育は、目先の結果のみを期待しているのではなく、生涯にわたる人格形成の基礎を作ること、『後伸びする力を』培うことを重視している」</p> <p>○養護と5領域の関係 ※図式化</p> <p>○「連続性」「総合的」等の語句説明</p> <p>○保育所の生活における養護の重要性</p> <p>○0歳～6歳まですべての年齢の子どもの生活の基礎となる</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>③ 一人一人の子どもの発達過程や生活リズムを考慮して、子どもの生理的欲求を十分に満たすようにする。</p> <p>④ 様々な食品や調理形態に慣れ、楽しんで食事をとることができるようにするとともに、職員間や家庭との連携を図り、子どもの食生活の充実や健康増進を積極的に図る。</p> <p>⑤ 子どもが自分でできることの範囲を広げながら、生活に必要な基本的な生活習慣や態度を子ども自身が身につけていくようにする。</p> <p><b>【健康・安全に関わる内容】</b></p> <p>① 一人一人の子どもの置かれている状態及び家庭、地域社会における生活の実態を把握するとともに、家庭や地域社会と連携して適切に対応する。</p> <p>② 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、適切に対応する。また、子ども自ら体の異常を訴えることができるようにする。</p> <p>③ 常に清潔で安全な環境を整え、適切な世話や応答的な関わりを通して一人一人の子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら子どもの発達に応じた適切な生活リズムがつくられるよう配慮する。</p> <p>④ 子ども年齢や発達過程に応じて、授乳、離乳食、幼児食の摂取法や摂取量などを考慮するとともに、アレルギーなど心身上の健康に関し、栄養士・調理員等と協力し、嘱託医等の指示を受ける。また、職員間で協力し、子どもの食や健康増進に関する保護者への情報提供に努める。</p> <p>⑤ 子どもの健康増進のために、虫歯予防や手洗いなど正しい健康習慣を身につけるようにするとともに、一人一人の状況に応じて、体力づくりのための活動を行う。</p>	<p>○子どもの健康・安全／第5章との関連</p> <p>○食育の視点／第5章との関連</p> <p>○「食育指針」を参考にすること等</p> <p>○生活習慣を身につけることの大切さ</p> <p>○日常生活の重要性</p> <p>例：地域の中の保育所が地域の様々な人や機関と連携して地域の子どもたちでもある保育所の子どもの健康と安全を守り、地域社会に貢献する。</p> <p>○ライフラインとしての保育所</p> <p>○ケアワークの重要性／「適切」の重要性</p> <p>○生活リズムがつくられることの大切さ／睡眠の重要性</p> <p>○乳幼児期の食事の重要性。職員間・家庭との連携・協力が食育においても必要</p> <p>○生活習慣、健康習慣を身につけることは子ども自身が主体的に生活していく基盤となる</p> <p>○5章との関連</p> <p>○保健計画等について</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p><b>【情緒の安定に関わるねらい】</b></p> <p>① 一人一人の子どもの状態に応じて、甘えなどの依存的欲求を十分に満たし、情緒の安定を図る。</p> <p>② 子どもを温かく受容し、適切な保護、世話をを行い、子どもが安定感と信頼感を持って過ごせるようにする。</p> <p>③ 一人一人の子どもの気持ちを理解して受容し、保育士等との信頼関係の中で、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。</p> <p>④ 一人一人の子どもが周囲から主体として受け止められ、主体として育っていくことができるよう、子どもの自己活動を重視し、適切に応じていく。</p> <p>⑤ 活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事・授乳、休息や睡眠をとり、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。</p> <p><b>【情緒の安定にかかわる内容】</b></p> <p>① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもが安心して甘えられるような触れ合いや言葉がけを行う。</p> <p>② 温かい雰囲気の中で適切な保護、世話をを行い、応答的関わりを通して子どもの欲求を適切に満たしていく。</p> <p>③ 一人一人の子どもの気持ちを温かく受容し、子どもが安心して自己を十分に発揮できるようにする。</p> <p>④ 保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めていかれるようにする。</p> <p>⑤ 一人一人の子どもの生活リズムや発達過程、保育時間などに応じて、適切な休息がとれるようにし、子どもの心身の疲れが癒されるようにする。</p>	<p>○依存と受容の大切さ</p> <p>○子どもの自己活動を重視することの大切さ</p> <p>○保育所の保育時間が長時間化していることや、夜型の生活などの背景を踏まえる</p> <p>○安心して保育士等に依存できるための配慮</p> <p>○応答的関わりについて</p> <p>○ありのままを受け止められること</p> <p>○主体としての子ども</p> <p>○長時間保育所で生活することへの配慮</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
(2)教育に関する ねらい及び内容	<p><b>1) 健康</b> 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p><b>[ねらい]</b></p> <p>① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p><b>[内容]</b></p> <p>① <u>保育士等や友達と触れ合い、様々な活動に親しみ、安定感をもって生活する。</u> ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かすとともに、進んで戸外で遊ぶ。 ③ <u>十分な食事と睡眠、休息をとり、健康な生活のリズムを身に付けていく。</u> ④ <u>楽しい雰囲気の中、様々な食材に親しみ友達とともに喜んで食事をする。</u> ⑤ <u>身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な習慣を徐々に身に付けていく。</u> ⑥ <u>保育所における生活の流れや仕方を知り、見通しをもって自分たちで生活の場を整える。</u> ⑦ 食べ物などに関心をもち、保育士等や友達と一緒に楽しんで食事をする。 ⑧ <u>自分のからだや健康に関心をもち、健康な生活や病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</u> ⑨ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p> <p><b>2) 人間関係</b> 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかわる力を養う。</p> <p><b>[ねらい]</b></p> <p>① 保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ② 進んで身近な人とかわり、一緒に行動することを楽しみ、愛情や信頼</p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <p>※教育の「目標」「ねらい」は幼稚園教育要領との整合性を考慮し、同内容。「内容」については、0～2歳の子どもや保育所の生活全般を考慮し、幼稚園教育要領の内容に必要な事項を加えている。小学校就学前までに育つことが期待される事項を【ねらい】とし、2章の子どもの発達過程を抑え、子どもの成長・発達を長期的視野をもって捉え、見通しをもって保育することが求められる。</p> <p>○健康は養護的側面もあるが、子ども自ら健康な体や生活を作り出すことを重要視する。</p> <p>○食育の視点が新たに教育としても入る</p> <p>○「人と関わる力」を醸成することの大切さ ○乳幼児期に、人への信頼感、愛情を育むことの重要性</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>感をもつ。</p> <p>③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p><b>【内 容】</b></p> <p>① <u>保育士等に様々な欲求を受け止めてもらい、保育士等に親しみを持ち、安心感をもって生活する。</u></p> <p>② <u>安心できる保育士等との関係の中で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、自らかかわろうとする。</u></p> <p>③ <u>保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。</u></p> <p>④ 友達と積極的にかかわり、喜びや悲しみを共感し合ったり、自分のよさに気付いたりする</p> <p>⑤ 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>⑦ 友達とのかかわりを深め、協力し工夫して、一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>⑧ <u>異年齢の子どもとかかわり、親しみや思いやりの気持ちをもつ。</u></p> <p>⑨ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p> <p>⑩ 共同の遊具や用具を大切にし、<u>順番を守ったり交代したりして使う。</u></p> <p>⑪ <u>地域の高齢者や外国の人など、様々な人に関心をもつ。</u></p> <p><b>3) 環 境</b></p> <p>自然や社会の事象、文化的な環境などの周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを遊びなどに取り入れていこうとする力を養う。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>① 身近な環境に親しむ中で、自然と触れ合い様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>② 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <p>○友達との生活、社会生活などを意識した共同性や協働の視点</p> <p>○保育所ならではの異年齢児同士の関わりや、様々な人との出会いを捉え「学び」とすること</p> <p>○自他尊重・アサーション</p> <p>○規範性</p> <p>○様々な人とかかわり／世代間交流・多文化共生の視点</p> <p>○「環境」を通して行う保育</p> <p>○様々な環境との出会いや関わり的重要性</p> <p>○保育士等が「環境」をどう捉え、保育の中で子どもの興味や関心、感性等と重ねながら活動を展開していくか</p> <p>○子どもと自然の関わり的重要性</p>



	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>③ 身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字、などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>[内 容]</p> <p>① <u>安心できる人的、物的環境のもとで、聞く、見る、触れるなどの感覚の働きを豊かにする。</u></p> <p>② <u>好きな玩具や遊具に興味をもってかかわり、一人遊びを十分に楽しむ。</u></p> <p>③ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>④ 身近な動植物に接して親しみをもち、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</p> <p>⑤ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>⑥ 生活の中で様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。</p> <p>⑦ <u>身近な事象や人々の生活に関心をもち、ごっこ遊びなどに取り入れて遊ぶ。</u></p> <p>⑧ <u>自分の物、人の物、共同の物の区別がつき、大切に扱う。</u></p> <p>⑨ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>⑩ 日常生活の中で数量や図形、簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p> <p>⑪ <u>近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。</u></p> <p>4) 言 葉</p> <p>経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>[ねらい]</p> <p>① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p>	<p>○五感</p> <p>○乳児の感覚の鋭さ</p> <p>○感覚や完成が育まれる環境</p> <p>○遊具や用具の色彩、感触、素材への配慮</p> <p>○1歳から6歳まで繰り返されるごっこ遊びの重要性</p> <p>○直接経験や具体的な物や事象を通しての認識、思考力</p> <p>○地域の環境との関わりや文化継承の視点</p> <p>○話す力・聴く力の醸成</p> <p>○言葉に対する感覚を育てる</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <p>③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、<u>保育士等</u>や友達と心を通わせる。</p> <p><b>[内 容]</b></p> <p>① <u>保育士等の応答的なかわりや話しかけにより、発語が促され、言葉を使うことを楽しむ。</u></p> <p>② <u>挨拶や返事など生活や遊びに必要な言葉が分かり、使う。</u></p> <p>③ したこと、見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことなどを自分なりに言葉で表現しようとする。</p> <p>④ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>⑤ <u>保育士等</u>や友だちの言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>⑥ 相手に分かるように話し、相手が伝えたいことに関心をもって聞く。</p> <p>⑦ 親しみをもって日常の挨拶をする。</p> <p>⑧ <u>生活や遊びの中で言葉の面白さや美しさに気付く。</u></p> <p>⑨ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>⑩ 絵本や物語などに親しみ興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</p> <p>⑪ <u>生活に身近な文字や記号などに興味、関心をもつ。</u></p> <p><b>5) 表 現</b></p> <p><u>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造力を豊かにする。</u></p> <p><b>[ねらい]</b></p> <p>① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p>○言葉になる前の言葉（乳児の喃語や声、身振り手振り）の大切さ</p> <p>○0～2歳頃の言葉の獲得過程にしっかり関わること</p> <p>○身体全体の表現による伝え合いから、主に言葉による伝え合いへと変化する</p> <p>○話すこと、聞くことの楽しさ、伝え合うことの面白さを経験していく</p> <p>○絵本や童話、詩、読み聞かせの大切さ</p> <p>○保育士等が言葉の持つ様々な機能を意識し、言葉環境を豊かにしていく</p> <p>○感動の経験を伝えたいという気持ちを育てること</p> <p>○伝え合い、共有することから表現が展開していく</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
<p><b>2. 保育実施上の配慮事項</b></p> <p><b>(1) 子どもの保育に関わる配慮事項</b></p>	<p><b>【内容】</b></p> <p>① <u>保育士等と一緒に、水、砂、土、紙、布、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。</u></p> <p>② 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどの面白さや不思議さなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。</p> <p>③ 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>④ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう</p> <p>⑤ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。</p> <p>⑥ <u>保育士等と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。</u></p> <p>⑦ いろいろな素材に親しみ、音に気付いたり、ものを組み合わせたりしてイメージをもって遊ぶことを楽しむ。</p> <p>⑦ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。</p> <p>⑧ かいたり、つくったりして表現することを楽しみ、工夫して遊ぶ。</p> <p>⑨ <u>自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れたり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。</u></p> <p>保育士等は保育の実施において、子どもの発達の過程やその連続性を踏まえ、この章に規定するねらいや内容を柔軟に取り扱うとともに、特に、以下のよう な事項に配慮すること</p> <p>① 子どもの心身の発達及び活動の実態など個人差に即して丁寧な保育するとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること</p>	<p>解説書で解説、説明することが考えられる事項</p> <p>○乳幼児の素朴な表現や想像力、創造性を受け止める。共に楽しむ</p> <p>○保育士等の声や自然の音など0歳児からの音環境の重要性</p> <p>○聴く力</p> <p>○イメージを豊かにすることの大切さ</p> <p>○子どもの豊かな発想や工夫を最大限生かしていくこと</p> <p>○様々な素材や道具、用具、自由に伸び伸びと活動できるスペース、環境設定</p> <p>○発達過程区分ごとの細かな配慮事項については解説書で説明</p> <p>○「実態」「個人差」…様々な状態、状況の子ども（障害のある子ども、病児病後児、長時間保育の子ども等）への配慮含む</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
	<p>② 子どもの健康は身体的・生理的成長とともに、自主性・自律性さらに社会性の涵養とがあいまってもたらされることに留意すること</p> <p>③ 子どもが自ら周囲に働きかけ試行錯誤しながら自分の力で行う活動を見守りながら適切な援助を行うこと</p> <p>④ 子どもの入所時の保育に当たっては、できるだけ個別的な対応を行うことによって子どもが安定感を得られるように努め、次第に保育所の生活になじむことができるように配慮するとともに、既に入所している子どもに不安や動揺を与えないよう留意すること</p>	<p>○年度途中入所や新入所児とその保護者への配慮</p>
(2) 乳児保育に関わる配慮事項	<p>① 乳児は、疾病への抵抗力が弱く、心身の未熟に伴う疾病異常の発生が多いことから、一人一人の発育・発達状態、健康状態の適切な判断に基づく保健的な対応を行うこと</p> <p>② 一人一人の子どもの生育の違いに留意しつつ欲求を適切に満たし、スキンシップを心がけながら、特定の保育士が応答的に関わるようにすること</p> <p>③ 乳児保育に関わる職員間の連携や嘱託医との連携を図り、保護者との信頼関係を築きながら保育をすすめるとともに、家庭への相談に応じ、育児支援に努めていくこと</p> <p>④ 担任や組などが変わる場合には、円滑な接続ができるよう職員間で協力して対応すること</p>	<p>○乳児保育、産休明け保育への配慮</p> <p>○保健的対応・医療との連携について</p> <p>○感染症、SIDSの予防について</p> <p>○応答的対応による愛着の形成</p>
(3) 3歳未満児の保育に関わる配慮事項	<p>① 感染症にかかりやすくなるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的対応を心がけること</p> <p>② 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱など生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で無理なく行うことができるようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを大切にすること</p>	<p>○育児や生活に対する保護者の不安や戸惑いを受け止め適切にアドバイス。特に第一子の子育ての場合は丁寧な対応が必要</p> <p>○無理なく徐々に慣れる</p> <p>○免疫がきれて感染症に罹患しやすい</p> <p>○早期に適切に対応する</p> <p>○幼児食へのスムーズな移行や好き嫌いへの対応を丁寧に無理なく行う</p> <p>○排泄の自立は個人差を考慮し家庭との連絡を取</p>

	指針に盛り込むことが考えられる事項	解説書で解説、説明することが考えられる事項
<p>(4) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項</p>	<p>③ 探索活動が十分できるように事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身や手を使う遊びを取り入れること</p> <p>④ 子どもの自我の育ちを見守り、その気持ちを受け止めるとともに、保育士が仲立ちとなって友達の気持ちや関わり方を根気よく伝えていくこと</p> <p>⑤ 特に2歳児においては3歳児クラスへの接続が円滑にすすむよう配慮すること</p> <p>① 様々な遊びの中で、子どもが全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること</p> <p>② けんかなど葛藤を経験しながら友達と一緒に行動することに喜びを見出し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること</p> <p>③ 遊びなどの中できまりがあることの大切さに気づき、自ら判断して行動できるよう配慮すること</p> <p>④ 自然物への興味、関心を通じた感性の育ちに注目し、その不思議さ、大きさ、美しさなどに気づきながら認識力、思考力を高めるとともに、豊かな感情や表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること</p> <p>⑤ 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、いつも子どもの話しかけに応ずるよう心がけるとともに、友達と伝え合ったり、みんなで話し合うことの楽しさが味わえるようにすること</p> <p>⑥ 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫をこらし自由に表現できるよう、保育材料をはじめ様々な環境の設定に留意すること</p> <p>⑦ 6歳児については、子ども同士の協同的な関係を大切にしながら、小学校への円滑な接続ができるようにすること</p>	<p>○様々な姿勢や動きをとりながら体を十分動かすことを楽しめるようにする</p> <p>○手や指を使う遊具や環境を用意する</p> <p>○自己主張と依存を繰り返して成長する</p> <p>①健康、②③人間関係、④環境、⑤言葉、⑥表現</p> <p>○活動のスペースや環境づくり</p> <p>○戸外で遊ぶことの大切さ</p> <p>○子どもにとってのけんかの重要性</p> <p>○葛藤経験の大切さ</p> <p>○友達の存在の大きさ</p> <p>○きまりを理解する</p> <p>○自然との触れ合い、関わり的重要性</p> <p>○からだ～直接経験を通して、様々な感性、思考力、認識力などが育つ</p> <p>○科学する心／学習の基盤</p> <p>○0歳からの言語環境</p> <p>○伝え合うこと心を通わせることの大切さ</p> <p>○協同的遊びや活動の大切さ</p> <p>○小学校との連携や関わりも視野に入れる →4章との関連</p>

